

巻頭言

20世紀文明の栄光と影

中国電力(株)副社長 井上 幸夫



20世紀は残り1年半となったが、歴史上世紀末になると「この世の終わり」といった終末観が現れ大抵はずれる。

20世紀末の現在、人類は科学技術の進歩や経済成長等によって、人口を加速度的に増加させながら生活水準も大幅に向上させた。

しかし、一方では、人類は進化し知的水準が向上したはずなのに、悲惨な国家・民族間の紛争や戦争を依然として続けている。

また経済成長は資源・エネルギーや環境問題などの制約から限界に近づいてきた。

そこで、20世紀文明と21世紀への課題について少し考えてみたい。

20世紀は一言で言えば、「科学技術の時代」であった。

相対性理論、量子力学や生命科学等の理論が発見され、また半導体、コンピュータ、情報通信技術、クローン技術等の開発など新しい発見・発明が相次ぎ、20世紀型工業社会が出現した。その結果経済は急成長し、人類は繁栄し豊かな文明社会を構築した。

このような豊かな文明社会の実現は、今世紀初めに予想されていただろうか。

一例をあげると、1901年の正月、報知新聞は「20世紀の予言」として23項目の「物質上の進歩についての想像」を取り上げた。

要約すると、20世紀中に実現するものとして

①無線電信および電話 ②遠距離の写真伝送（および天然色写真） ③野獣の滅亡 ④支那、日本およびアフリカの発達 ⑤7日間世界一周 ⑥空中軍艦、空中砲台 ⑦蚊および蚤の滅亡 ⑧暑寒調製の新機器 ⑨植物の人工栽培 ⑩電声器 ⑪写真電話 ⑫買物便法（通信販売） ⑬電気燃料 ⑭高速鉄道 ⑮市街鉄道（地下鉄） ⑯鉄道の連絡 ⑰天気予知・管理 ⑱人の身体成長（6尺以上の身体） ⑲医術の進歩（内蔵移植） ⑳自動車の世 ㉑人と獣との会話自由 ㉒幼稚園の廃止（高学歴化） ㉓電気の輸送

をあげた。

この予言は一部を除き見事に的中し、実際には予想を上回る結果となった。

しかし20世紀に発達した知識は、特定の側面に細分化し技術に偏重した専門知識が中心で、物事の全体を総合的にとらえるものでなかった。

また、歴史、文学、哲学、芸術等の人間性教育がなおざりにされた。

その結果、緊急を要するコンピュータ2000年問題や、地球温暖化、環境汚染、未知ウイルスの侵入等人類の存亡にかかわる中長期的問題も発生し、解決を迫られている。

また、日本では家庭崩壊、学級崩壊や市場混乱など国の基盤にかかわる問題への早急な対応も必要になっている。

人類はこれらの諸問題を解決し、人類の繁栄と豊かな文明を永続するため、大量生産、大量消費、大量廃棄の20世紀型工業文明を見直し、環境調和型文明へ急いで変革しなければならない。